

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業			担当部局庁	初等中等教育局		作成責任者		
事業開始年度	令和元年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	参事官(高校担当)		参事官(高等学校担当) 田中 義恭		
会計区分	一般会計								
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	「骨太の方針令和元年」令和元年6月閣議決定 「文部科学大臣懇談会報告書」Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～ 平成30年6月5日				
主要政策・施策	-			主要経費	文教及び科学振興				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	新たな時代に向けた学びの変革、取り組むべき施策の一つとして、高度かつ多様な科目内容を、生徒個人の興味・関心・特性に応じて履修可能とする高校生の学習プログラムの開発と実践をにない、将来的に、高校生6万人あたり1か所を目安に、すべての高校生がオンライン・オフラインで参加することを可能とするWWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアムの創設を目指すため、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供する仕組みを形成した拠点校を全国に配置することで、将来的に、WWLコンソーシアムへとつなげることを目的としている。								
事業概要(5行程度以内。別添可)	本事業では、将来、世界で活躍できるイノベティブなグローバル人材を育成するため、これまでのスーパーグローバルハイスクール事業の取組の実績等、グローバル人材育成に向けた教育資源を活用し、高等学校等の先進的なカリキュラムの研究開発・実践と持続可能な取組とするための体制整備をしながら、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供する仕組み(ALネットワーク)の形成を目指す。								
実施方法	委託・請負								
予算額・執行額(単位:百万円)			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求		
	予算の状況	当初予算	113	151	251	232	256		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	2	-	-	-		
	計		113	153	251	232	256		
	執行額		113	153	239	-			
	執行率(%)		100%	100%	95%	-			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		100%	101%	95%	-			
令和4・5年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由					
	初等中等教育振興事業委託費	228	252	※単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。 ※令和4年度から開始した個別最適な学習環境を構築するための予算(全国の高校生が高度かつ多様な学習プログラム等をオンラインで学習することができるような仕組みの開発に係る費用)の拡充要求による増。					
	諸謝金	2	2						
	委員等旅費	1	1						
	職員旅費	0.6	0.6						
	教職員研修費	0.1	0.1						
	計	232	256						
活動内容(アクティビティ)	高等学校等の先進的なカリキュラムの研究開発・実践と持続可能な取組とするための体制整備をしながら、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、全国の高校生の高度な学びを提供する仕組み(ALネットワーク)の形成を目指す取組を実施する。								
活動目標及び活動実績(アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込
	AL(アドバンス・ラーニング)ネットワークの拡大	カリキュラム開発拠点校への委託件数	活動実績	件	10	16	22	-	-
			当初見込み	件	10	16	22	16	-
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	カリキュラム開発拠点校への委託額/拠点数	単位当たりコスト	百万円	10	9	8.9	8.7		
		計算式	百万円/拠点数	100/10	144/16	196/22	139/16		

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
					-	年度	5	年度	
①高大連携による大学教育の先取り履修(科目等履修生制度を活用)を単位認定する制度	対象となる生徒が大学教育の先取り履修することが可能となる制度が出来ている学校数(短期的アウトカム)	成果実績	%	10	38	55	-	-	
		目標値	%	-	-	-	-	100	
		達成度	%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名(出典)	令和元年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業 事業完了報告書 令和2年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業 事業完了報告書 令和3年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業におけるEBPMIに向けたデータ収集・分析、効果検証等のための調査報告書								
活動内容(アクティビティ)	高等学校等の先進的なカリキュラムの研究開発・実践と持続可能な取組とするための体制整備をしながら、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、全国の高校生の高度な学びを提供する仕組み(ALネットワーク)の形成を目指す取組を実施する。								
活動目標及び活動実績(アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込
	国内外との連携によるグローバルな社会課題の解決に向けた探求的学びの実現	事業終了までに国内外の高等学校等との連携による、高校生国際会議等を開催する	活動実績	件	8	13	16	-	-
			当初見込み	件	10	16	22	16	-
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	該当校への委託額 / 該当校数			計算式	/	-	-	143/16	139/16
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
					-	年度	5	年度	
	②体系的な海外研修、短期・長期留学制度	対象となる生徒がカリキュラムの中に体系的に位置づけられた海外の連携校等への短期・長期留学や海外研修等を実施した学校数(短期的アウトカム)	成果実績	%	70	88	95	-	-
目標値			%	-	-	-	-	100	
達成度			%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名(出典)	令和元年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業 事業完了報告書 令和2年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業 事業完了報告書 令和3年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業におけるEBPMIに向けたデータ収集・分析、効果検証等のための調査報告書								
活動内容(アクティビティ)	高等学校等の先進的なカリキュラムの研究開発・実践と持続可能な取組とするための体制整備をしながら、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、全国の高校生の高度な学びを提供する仕組み(ALネットワーク)の形成を目指す取組を実施する。								
活動目標及び活動実績(アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込
	グローバルな社会課題の解決に向けた探求的学びの実現による新しいカリキュラム開発	カリキュラム開発拠点校への委託件数	活動実績	件	10	16	22	-	-
			当初見込み	件	10	16	22	16	-
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	カリキュラム開発拠点校への委託額 / 拠点数			計算式	百万円 / 拠点数	100/10	144/16	196/22	139/16
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
					-	年度	5	年度	
	③グローバルな資質・能力(グローバル・コンピテンシー)の達成度	対象生徒の資質・能力(グローバルコンピテンシー)	成果実績	%	72	74	84	-	-
目標値			%	-	-	-	-	80	
達成度			%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名(出典)	令和元年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業 事業完了報告書 令和2年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業 事業完了報告書 令和3年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業におけるEBPMIに向けたデータ収集・分析、効果検証等のための調査報告書								
活動内容(アクティビティ)	高等学校等の先進的なカリキュラムの研究開発・実践と持続可能な取組とするための体制整備をしながら、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、全国の高校生の高度な学びを提供する仕組み(ALネットワーク)の形成を目指す取組を実施する。								
活動目標及び活動実績(アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込
	オンラインフィールドワークなど、豊かなオンライン環境を駆使したカリキュラム開発	カリキュラム開発拠点校への委託件数	活動実績	件	10	16	22	-	-
			当初見込み	件	10	16	22	16	-

単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	カリキュラム開発拠点校への委託額／拠点数		単位当たりコスト	百万円	10	9	8.9	8.7	
			計算式	百万円/ 拠点数	100/10	144/16	196/22	139/16	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 5 年度
	④グローバルなマインド セットの達成度	対象生徒のグローバルマイ ンドセット	成果実績	%	64	71	88	-	-
			目標値	%	-	-	-	-	80
			達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)									
活動内容 (アクティビ ティ)	高等学校等の先進的なカリキュラムの研究開発・実践と持続可能な取組とするための体制整備をしながら、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、全国の高校生の高度な学びを提供する仕組み(ALネットワーク)の形成を目指す取組を実施する。								
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
	文理横断的な教育課程に おける探求型行動によるイ ノベティブな発想力の習 得	カリキュラム開発拠点校へ の委託件数	活動実績	件	10	16	22	-	-
			当初見込み	件	10	16	22	16	-
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	カリキュラム開発拠点校への委託額／拠点数		単位当たりコスト	百万円	10	9	8.9	8.7	
			計算式	百万円/ 拠点数	100/10	144/16	196/22	139/16	
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 5 年度
	⑤PPDAC(探求型行動)達 成度を向上させていく	対象生徒のPPDAC (Problem Plan Data Analysis Conclusion)(課題 解決のためのフレームワ ーク:探求型行動)	成果実績	%	72	73	88	-	-
			目標値	%	-	-	-	-	80
			達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	令和元年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業 事業完了報告書 令和2年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業 事業完了報告書 令和3年度WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業におけるEBPMIに向けたデータ収集・分析、効果検証等のための調査報告書								

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	Society5.0の新たな時代に必要とされるイノベティブなグローバル人材を育成する取組であり、日本の重要課題に定める施策である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生国際会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供する仕組み「アドバンスド・ラーニング・ネットワーク」を形成した拠点校を全国に配置することで、将来的に、WWLコンソーシアムへとつなげることを目的としているため、国が実施する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業はSociety5.0の新たな時代に必要とされる人材の育成であり、優先度は高いものと考えられる。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	事業を実施する事業者は、公募を実施するとともに、外部有識者により構成される企画評価会議を経て選定することになっており、妥当性は十分確保されている。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	事業実施に係る経費のうち、ネットワークやコンソーシアムの構築、国際会議の開催など、持続可能な取組につながる経費負担を事業者に義務付けるとともに、事業の対象経費を申請段階で精査の上で支出する。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	先進的なカリキュラム研究開発・実践に必要な経費であり、水準は妥当である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	国の契約及び支払に関する規定の趣旨に従い、経費の効率的使用に努めている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	事業実施に係る経費のうち、ネットワークやコンソーシアムの構築、国際会議の開催など、持続可能な取組につながる経費負担を事業者に義務付けるとともに、事業の対象経費を申請段階で精査の上で支出する。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	全体の連絡協議会等を通じて更なるコスト削減や効率的な事業執行に向けた取組を求めている。助言や指導等を通じて、研究開発全体の改善を図ることで事業全体の効率化を図っている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	予定通りの実績である。 (年度別の目標は立てていませんが、目標達成済項目の維持と、未達成項目において令和元年度から令和3年度と同程度の上昇ができれば、全項目で最終年度の目標を達成する。)
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	当該事業は、将来イノベティブなグローバル人材を育成するため、文理両方を学ぶ高校改革と高大接続改革を推進するリーディング・プロジェクトであり、高等学校等の設置者に委託するのが妥当である。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	予定通りの実績である。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	当該事業の構想をより多くの学校に広めていく観点から、当該事業で指定を受けたカリキュラム開発拠点校22校のみならず、事業内容を踏まえたグローバル人材育成に資する教育の開発・実践に取り組む共同実施校や国内外の連携校とともにコミュニティを形成している。このコミュニティに幹事校を1校配置し、取組成果等を連絡会等を開催するほか、WWL専用HPhttps://b-wwl.jp/を通じて、共有・発信に努めている。 また全国高校生フォーラムを開催し、全国の高校生がポスター発表など学びを英語で発信する場を通じて、より多くの高等学校へ発信するなど十分に成果を活用している。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	事業番号	事業名	

点検・改善結果	点検結果	本事業は、初等中等教育段階におけるグローバル・リーダーの育成に資するものであり、極めて優先度の高いものとなっている。また、国公立学校を広く対象とすることで広く国民のニーズに応える施策となっている。さらに、費目・使途に関し、事業目的に照らし真に必要なものに限定していることから、適切な内容となっている。
	改善の方向性	成果について、連絡協議会での事例集取りまとめ、全国高校生フォーラムによる高校生の学びの発信など、HPなども通じて全国の高等学校等に広めていくなどの事業の効率化を図っており、今後は事業検証により事業全体の成果等を明らかにしていくため、引き続きエビデンスとともに、将来におけるWWLコンソーシアムの構築に向けてしっかりと成果の普及に努める。

外部有識者の所見

外部有識者による点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

の事業内容改善	この事業は事業目的に即した成果指標は設定されているが、成果実績の数値が事業最終年度目標を超えているものが見受けられるため、目標については、来年度以降、再設定するよう改善すべきである。
---------	---

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

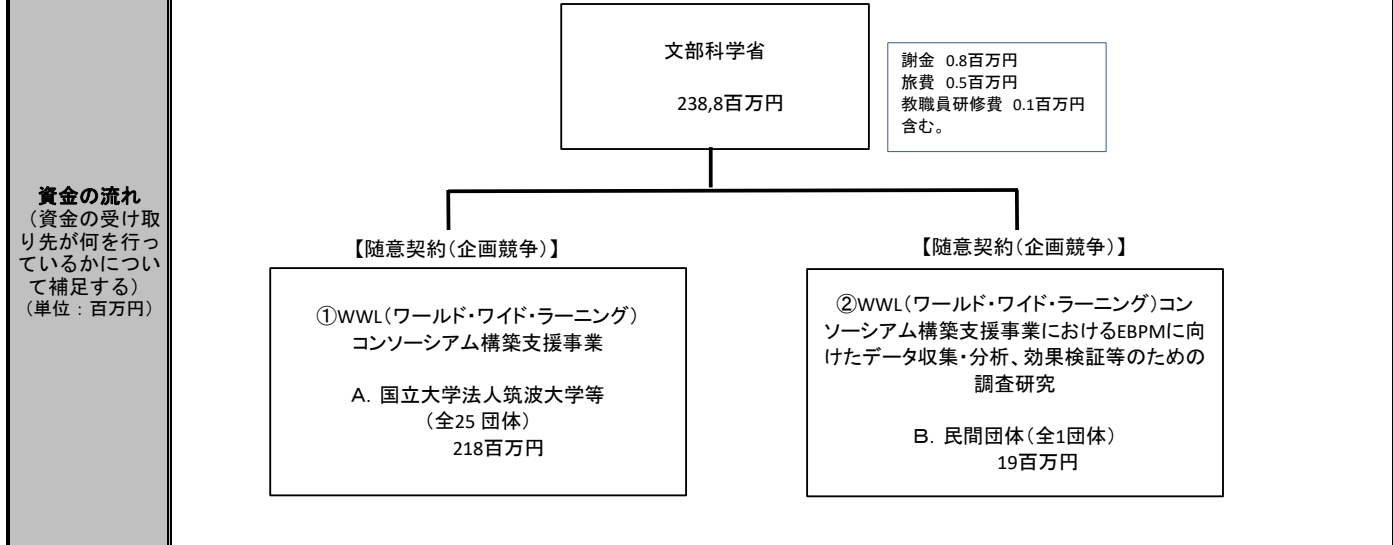
をに年検改度善内	学校数が年々増加している中においても、一定レベルでの成果を達成し続けることにより、最終目標であるイノベティブなグローバル人材の育成と全国的なコンソーシアム構築を達成するよう努める。
----------	--

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度	-			
平成24年度	-			
平成25年度	-			
平成26年度	-			
平成27年度	-			
平成28年度	-			
平成29年度				
平成30年度	新31-0009			
令和元年度	文部科学省 - 新31 - 0010			
令和2年度	文部科学省 0067			
令和3年度				

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.国立大学法人筑波大学			B.株式会社リベルタス・コンサルティング		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	フォーラム等の運営補助等		10.4	人件費	研究員給与等	15.8
旅費	国内研修費等		3.5	消費税相当額		1.6
印刷製本費	パンフレット等		3.4	一般管理費		0.8
人件費	事務補佐員		3.2	諸謝金	運営指導委員会、成果報告会有識者への謝金等	0.4
消耗品費	消耗品購入		1.2	通信運搬費	送付用切手代	0.3
その他(合計)			4.3	雑役務費	調査費用等	0.1
計			26	計		19

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立大学法人筑波大学	5050005005266	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業のネットワークの構築(幹事校及びカリキュラム開発拠点校 国立大学法人筑波大学坂戸高校)	26	随意契約 (企画競争)	17	100%	-
2	国立大学法人広島大学	1240005004054	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業(カリキュラム開発拠点校 広島大学附属福山中・高等学校)	9	随意契約 (企画競争)	17	100%	-
3	国立大学法人愛媛大学	9500005001934	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業(カリキュラム開発拠点校 愛媛大学附属高校)	9	随意契約 (企画競争)	17	100%	-
4	宮崎県教育委員会	4000020450006	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業(カリキュラム開発拠点校 宮崎県立宮崎大宮高校)	9	随意契約 (企画競争)	17	100%	-
5	広島県教育委員会	7000020340006	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業(カリキュラム開発拠点校 広島県立国泰寺高校)	9	随意契約 (企画競争)	17	100%	-
6	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学	3180005006071	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業(カリキュラム開発拠点校 静岡県立三島北高等学校)	9	随意契約 (企画競争)	17	100%	-
7	学校法人中村学園	7290005001256	WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業(カリキュラム開発拠点校 中村学園女子高等学校)	9	随意契約 (企画競争)	17	100%	-

